

パレスチナ・ガザ地区「子どもの栄養失調予防事業」

【事業内容】

1. **事業の名称**：パレスチナ・ガザ地区「子どもの栄養失調予防事業」
2. **事業期間**：2015年8月1日～2016年7月31日
3. **現地パートナー団体**：パレスチナのNGO「Ard El Insan（人間の大地、以下 AEI）」
4. **事業費予算**：12,000,000円程度
5. **受益者の総数**：7,430人
（ア）地域ボランティア 30名、
（イ）妊産婦を含む対象地域の女性 5,000人、
（ウ）5歳以下の子ども 2,400人

6. **実施体制**：JVC と現地パートナー団体 Ard El Insan（人間の大地）との協働事業

JVC は資金調達、ドナーへの報告、スケジュール管理、モニタリング、評価、会計のとりまとめ、専門家派遣等を行い、Ard El Insan は事業活動の実施を担当する。

7. **パレスチナ・ガザ地区の社会的背景**：

度重なるイスラエルからの軍事侵攻と封鎖の継続によって、パレスチナ・ガザ地区（以下ガザ）で安定的に食料を得られる人々は全人口の3分の1にすぎず、慢性的な栄養不足が問題となっている¹。2014年7-8月には、2007年の封鎖以来4度目となるイスラエルからの軍事攻撃があり、命を落とした約2,000人のうち、1,500人以上が一般市民だったといわれる。また農地や工場の破壊によりガザの失業率は43パーセント、若年層では67パーセントに上昇し²、乳児死亡率も1,000人当たり20.2人であった1歳未満の死亡率が2013年には22.4人に増加、戦後はさらに悪化の恐れが指摘されている。³

子どもたちの間では、主要栄養素の不足に加え、微量栄養素の不足が、身体、運動能力、精神、行動、認知、言語における発展を妨げ、免疫能力をも低下させている。また、これらの貧血と栄養失調は見た目には分かりにくいこともあり、「見えない飢餓」とも言われ、母親や近隣住民が気づかない場合が多く、深刻なケースに陥る場合が後を絶たない。

こうした状況を緩和・改善するために、JVC は以下の3点を大切にしながら、2006年以降、ガザの子どもを対象にした栄養失調予防のための事業を行っている。



¹ 国連食糧農業機関（FAO）報告書、2009年

² 国連人権高等弁務官事務所（UNHCHR）レポート・インフォグラフィクスより
（<http://www.ohchr.org/EN/HRBodies/HRC/CoIGazaConflict/Pages/ReportCoIGaza.aspx>）

³ 国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）2015年8月発表

- 1) 封鎖状態からの解放のための政策提言
- 2) 保健支援
- 3) 両親や近隣住民の貧血や栄養失調に関する意識・知識の向上に向けた教育支援

対象地であるジャバリヤ市ビルナージャ（ガザ地区北部）は、ガザの人口の180万人の内8割が、国連パレスチナ難民救済機関（UNRWA）等によって食料支援を受けられる難民であると言われる中、ガザに従来から住む、つまり「難民」ではないパレスチナ人が多く、したがって国際援助の手が届き難い地域となっている。

実際、過去2年の間に行われたJVCの調査では、当該地の難民の割合は4.5割程度にとどまり、またガザの子どもの貧血児の平均的割合が2013年度に32パーセントであるのに比べて、2014年度当該地でJVCが実施したベースライン調査にて、39パーセント以上の子どもが貧血児であることがわかっており、この地域がガザの中でも子どもの栄養状態が悪い地域であり、これが貧困に基づくと予想されている。

また、JVCが当該事業を開始する前である2012年に行った独自の調査では、子どもの栄養状態が他地域に比べて悪く、それにもかかわらず、それを改善するための母親や家族の栄養に関する知識が他地域に比べて低いとの結果も出ており、知識の改善を基盤にした抜本的な子どもの栄養改善・栄養失調予防についてニーズがみられた。

8. 活動目標：

プロジェクト大目標

ガザ地区の子どもの栄養状態が改善される。

2015年度後半・2016年度 プロジェクト目標

- 1) 対象地域でボランティアが育成され、地域の人々の栄養指導にあたるようになる
- 2) 1)により、地域の人々の栄養に関する知識が向上するとともに、子どもの栄養失調予防に向けた日々の行動が改善される
- 3) 子どもの栄養状態が改善される
- 4) 子どもの栄養失調予防を目的とした地域のネットワークが機能する
- 5) 幼稚園の子どもを取り巻く保健状態が改善する

○上記目標に関する数値目標

- 1) 対象地域でボランティアが育成され、地域の人々の栄養指導にあたるようになる
 - ・選出されているボランティア30人の85%が、事業期間中活動を続ける
 - ・ボランティアの90%がベースラインから30%知識を向上させる
 - ・ボランティアの90%がベースラインから30%の技術を向上させる

・ ボランティアの 60%が事業終了後も活動を続ける意志を見せる

2) 1) により、地域の人々の栄養に関する知識が向上するとともに、子どもの栄養失調予防に向けた日々の行動が改善される

【知識】

・ 教育セッションとカウンセリング等を受けた地域の母親・妊産婦の 70%が、貧血、くる病、栄養失調の 3 つの症状を言えるようになる

・ 教育セッションとカウンセリング等を受けた地域の母親・妊産婦の 70%が貧血、くる病、栄養失調を予防するための 3 つの食材を言えるようになる

・ 妊産婦カウンセリングを受けた地域の妊産婦の 70%が母乳育児の子どもと女性へ対する効果を言えるようになる

【行動】

・ 妊産婦カウンセリングを受けた地域の妊産婦で、完全母乳育児を実施していない女性の 45%が母乳育児を実施するようになる。

・ 教育セッションやカウンセリングを受けた地域の母親・妊産婦の 70%が知人等に自分の知識を紹介する。

・ 教育セッション、とりわけ調理実習を受けた地域の母親・妊産婦の 50%が調理実習で身につけた知識を用いて家庭での調理を行うようになる

・ 教育セッションやカウンセリングを受けた地域の母親・妊産婦の 70%が栄養補助タブレットに関して正しく子どもに与えられるようになる

3) 子どもの栄養状態が改善される

・ 栄養状態検査の結果、何らかの栄養失調不良と認められた子どもの 60%が症状を改善させる

・ 栄養状態検査の結果、クリニックに紹介された子どもの 80%がクリニックを訪問し、そのうち 100%が症状を改善させる

4) 子どもの栄養失調予防を目的とした地域のネットワークが機能する

・ 地域既存の 2 つの CBO、2 つのクリニック、3 つの幼稚園が、ボランティア活動の受け皿となる

・ ボランティアの自発的な活動が、月に 4 回以上みとめられる

5) 幼稚園の子どもを取り巻く保健状態が改善する

・ 幼稚園での衛生教育セッションを受けた子どもの 60%が、朝食の前に手を洗う

・ 幼稚園でのセッションを受けた子どもの 60%が、教室内でゴミをゴミ箱に捨てる様になる

・ 幼稚園でのセッションを受けた子どもの 60%が毎朝朝食をとるようになる

9. 活動内容：

本事業は、地域の女性ボランティア 30 名を対象に、栄養と子どもの成長に関する研修を実施しながら、現地パートナー NGO の保健指導員の指導の下、ボランティアが対象地域で家庭訪問及び栄養講習を行うことを活動の基盤とし、地域内のネットワーク構築にも取り組んでいる（詳細は以下の「活動一覧」参照）。これらの活動を通じて、受益者の栄養に関する知識が向上すると同時に、子どもの栄養改善に向けた活動基盤がコミュニティ内部で構築され、子どもの栄養失調の予防と改善につながることを期待している。

また、ボランティアの指導と研修は、失業率が高いガザにおいて彼女らが自活する術を身につける職

業訓練としても役に立っている。そうした意味で、当該事業は持続的に栄養改善をもたらす地域の枠組み作りだけでなく、地域の相互扶助の発展にも貢献する点で、他に類を見ない活動となっている。

活動一覧

- 1) ボランティア女性 30 人の育成と指導、研修の実施
 - ①座学研修 4 週間
 - ②実地指導通年
- 2) ボランティアによる保健師指導の下の家庭訪問
 - ①子どもの健康調査及び家庭登録
 - ②母親・家族への栄養・保健に関するカウンセリング
 - ③妊産婦への母乳育児中心の育児カウンセリング
 - ④子どもの健康改善フォローアップ検診
- 3) 地域での栄養教育講習
 - ①調理実習の実施
 - ②女性委員会への講習の実施
 - ③公共の場所での講習の実施
 - ④幼稚園での講習の実施
- 4) ネットワーク作りに配慮した対象地域内の地域社会施設、一次医療施設、幼稚園、モスク等への協力要請のための訪問と 4) ③の協働
 - ①訪問
 - ②協働による 4) ③の実施
- 5) モニタリング、評価、報告
 - ①毎月モニタリング
 - ②6 ヶ月毎の報告
 - ③事業終了時評価

10. ガザに関連したその他の活動：

これらの活動を進める一方で、問題の根本が政治的理由に基づくガザ地区の封鎖や度重なる軍事侵攻であることは明らかであるため、人々の自助努力のみに依存することでは抜本的な問題の解決には至らない。国際社会が生み出した封鎖と言う社会悪を見直すため、JVC は国連をはじめとした国際社会や日本政府に向けた政策提言も傍らで行い、また、日本側一般市民を巻き込んでガザの人々と連携し、ガザの人々が孤立しないように「双方が目に見える報告やイベント」の実施にも力を入れている。

結果、本事業及び本事業に関連して行うあらゆる活動は、「子どもの栄養失調の予防」という目先の問題を撲滅することのみに囚われず、それを生み出す社会構造そのものの問題にも着眼し、鳥瞰的・包括的な視点で社会的に大変意義深いものであると考えている。